



NIHON MOKUSEIREN
KIDUKAI CO₂ KOTEIRYŌ NINSYŌ

moco

日本木青連 木づかいCO₂固定量認証制度

日本の森を元気にしよう

木材利用による地球環境貢献を
高炭素ストック社会の形成を通し実現するのが
日本木材青壮年団体連合会のねがいです

www.mokusei.net

— 日本木材青壮年団体連合会 —

日本全国の木材に関わる企業の若手の有志による団体です。
木材利用を通じより良い社会形成を願い、日本全国で活動を
展開しています。

木材が持つ「炭素貯蔵能力」「環境負荷の小さい素材」「継続可
能な機能」の特性を皆様に知っていただきたいという思いで、
日本木青連木づかいCO₂固定量認証制度を始めました。



木材利用による地球環境貢献を目指して 私達は炭素固定量の認証をしていきます

木は、その生長の過程で二酸化炭素(CO₂)を吸収します。今、地球温暖化対策が世界共通の問題となっていますが、私たちが生活の中で排出するCO₂を吸収してくれているのが森林です。例えば、自家用乗用車1台が1年間に排出するCO₂の量は約2,300kg。これは、50年生の杉およそ160本が1年間に吸収するCO₂量に相当します。

また、日本は、地球温暖化対策のための「京都議定書」で2012年までにCO₂排出量を6%削減する(1990年比)という目標が課せられましたが、そのうち3.8%を森林による吸収で達成しようと計画しています。CO₂削減において森林が果たす役割は、それほど大きなものなのです。

木が、植林されてから柱や梁といった建築用材として使えるようになるまでには平均的に、50年以上もの月日を要します。私たちの住まいに使われる木は、50年に亘ってCO₂を吸収し、炭素(C)を貯蔵固定してきました。そして、50年間吸収したCO₂は、伐採されて建築用材となっても炭素として木の中に閉じ込められています。これを「炭素の固定化」といいます。つまり、木材は炭素を固定化した、環境にやさしい家だといえるのです。

“CO₂を吸収し、炭素を固定化した家は、環境にやさしい”

日本木材青壮年団体連合会は、そんな木の家のよいところを具体的に伝えていくために、『木づかいCO₂固定量認証制度』を始めました。あなたの家は何トンのCO₂を吸収し、炭素を固定化しているのか？その具体的な数値を算出して、日本木材青壮年団体連合会が認証します。

家づくりを通じて環境に貢献する。その具体的な一歩を、日本木材青壮年団体連合会は応援します。



木造建築



木製品

環境貢献度が見える仕組み

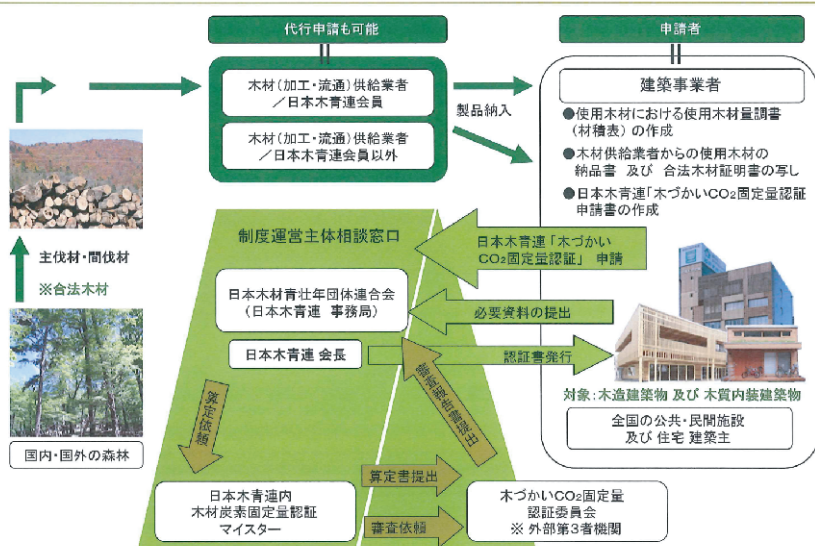
木づかいCO₂固定認証依頼
木づかいCO₂個定量を算定

受付

審査

認証

日本木材青壮年団体連合会「木づかいCO₂固定量認証制度」の全体像



木づかいCO₂固定量認証書



木製プレート(別途有償)



日本木材青壮年団体連合会
<http://www.mokusei.net/>

〒135-0041 東京都江東区冬木6-14 飯沼ビル102
TEL:03-5620-4806 FAX:03-5620-4809

